



令和8年産（7年播種） 麦類の生育概況 vol. 1



埼玉県マスコット
「コバトン」

(令和7年12月3日現在)
埼玉県農業技術研究センター

要 約

- ◎気象概況：11月の月平均の平均気温は平年並、降水量はかなり少なく、日照時間は多い。
- ◎生育状況：播種作業は順調に進捗しているが、土壤水分が低いため出芽に時間を要している。
- ◎今後取るべき技術対策
 - ・播種作業：今後播種する場合は、播種量を1～2割増やし苗立ち数を確保する。
 - ・排水対策：明きよの設置が未実施のほ場は必ず実施し、排水路と連結させる。
 - ・雑草防除：播種後土壤処理剤が散布できなかったほ場では、雑草の種類と葉齢を確認し、適期に茎葉兼土壤処理剤を散布する。
 - ・病虫害防除：今後播種する場合は、なまぐさ黒穂病やヤギシロトビムシの発生リスクが高まるため、種子消毒を必ず実施する。
 - ・麦踏み：3枚目の葉が出たら、ほ場の土壤水分状態に注意して実施する。

1 気象の概況

11月の平均気温は第1、3、4半旬が平年並、ほかは平年より高く経過し、月平均では平年より0.3°C高くなった。降水量は月を通じて少なく、特に第3、4、6半旬には0.5mm以上の降雨がなく、月合計では平年比11%となった。日照時間の月合計は平年比113%と多かった。

2 生育の概況

(1) 所内生育相

小麦、大麦とも播種時の土壤は適湿であり、碎土が良好な条件で11月25日に播種作業を実施した。

所内生育相の耕種概要

麦種	品種名	播種量 (kg/10a)	施肥量(N:kg/10a)	
			基肥	追肥
小麦	さとのそら	6.0	6.0	4.0
大麦	ニューサチホゴールデン	6.0	7.0	2.0

注1. 播種様式：シーダーテープによる条播(条間30cm)

(2) 県内全般

11月19日現在の麦類の播種作業進捗状況は、暖冬傾向の中で早播きを避けることが浸透したことから平年よりも遅れているが（R7/過去5年平均、大麦：21.6%/50.8%、小麦：14.9%/42.4%）、11月に入ってまとまった降雨が無いことから、播種作業開始後は順調に作業が進んでいる（同、大麦：89.2%/89.8%、小麦：63.8%/80.7% 12月3日現在）。

11月の平均気温は平年並であるが、降水量がかなり少ないため、土壤水分が低く出芽に時間を要している

3 今後の生育予測

(1) 気象予測

11月25日気象庁発表の3か月予報では、12～2月の平均気温はほぼ平年並、降水量は少ないと予報されている。

(2) 生育予測

土壤水分が低いことから緩慢な生育が見込まれ、晚播ほ場では初期生育の遅れから茎数不足が懸念される。特にビール麦の茎数不足は、遅れ穂の発生と刈遅れに伴う裂皮・剥皮の発生を招くおそれがあるので、注意が必要である。

4 今後取るべき技術対策

(1) 播種作業

12月播きの場合は、苗立数（100～150 本/m²）を確保するため、碎土率を高め、播種量を1～2割程度増やす。ほ場が乾燥している場合は、播種後に鎮圧を行うことで種子と土壤を密着させ、水分吸収を促進し均一な出芽を促す。なお、遅播きの麦は葉枚数が減少し、節間が伸びて倒伏しやすくなるため、施肥量はやや控える。

(2) 排水対策

近年しばしば発生するまとまった降雨に対応するため、明きよの設置を行っていないほ場では必ず設置する。設置済みのほ場でも、排水路と連結されているか、播種作業などで埋もれていないか等を確認し、問題があれば速やかに補修する。

(3) 雑草防除

播種後土壤処理剤を散布できなかったほ場や、麦の出芽や雑草の発生が始まったほ場では、雑草及び麦の葉齢、雑草の種類を確認し、適期に使用可能な茎葉兼土壤処理剤を散布する。

(4) 病害虫防除

固定化した水田転換畠や畠で小麦を連作している場合、コムギなまぐさ黒穂病やヤギシロトビムシの発生が懸念され、晚播によりそのリスクが拡大する。

前年発生ほ場及びその周辺では種子消毒を必ず実施する。

(5) 麦踏み

麦踏みには、下位節からの分げつ発生を促し、茎数を増加させる効果がある。麦の3葉目が出始めたら、年内に1回ローラー等で軽めに麦踏みを行う。ただし、土壌水分が高い状態で実施すると土壌が締まり湿害を助長するため、天候や土壌の水分状態に注意して実施する。また、過乾燥の場合は、過剰な麦踏みでかえって生育を抑制する危険性があるため注意する。

11月21日に播種したほ場では12月21日頃、12月1日に播種したほ場では1月8日頃に3葉目が展開を始め、麦踏みを開始できると見込まれる（農作物発育予測プログラムによる発育予測）。実際のほ場の生育状況を確認して麦踏みを始められるようになったら、速やかに行い、早期の分げつ確保を心掛ける。

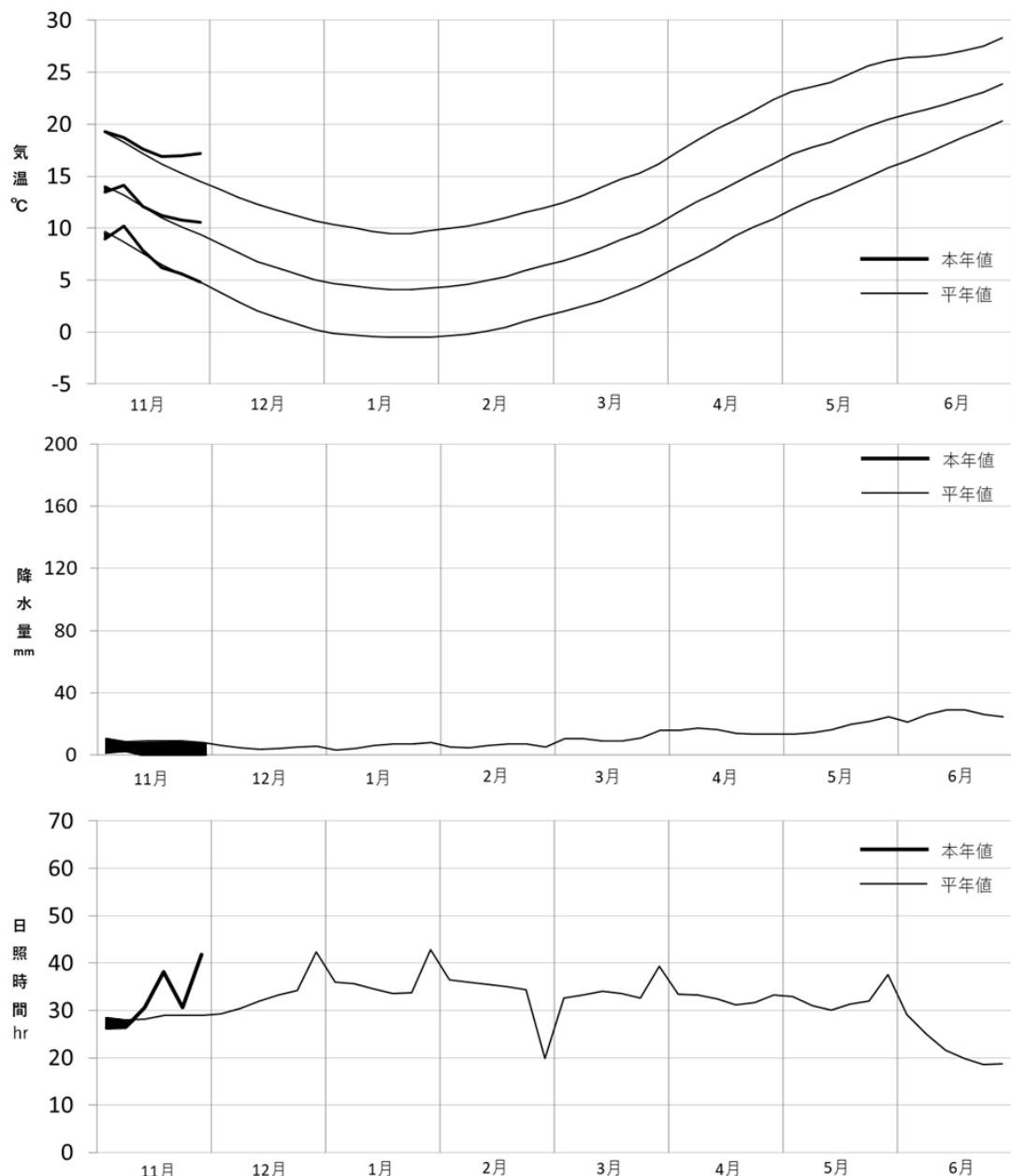
解析・考察に用いた具体的な数字

1 11月の気象表（熊谷気象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	13.5	14.1	19.3	19.2	9.0	9.7	2.5	10.4	26.3	28.4
2	14.1	13.2	18.7	18.3	10.2	8.7	3.0	8.5	26.5	28.0
3	12.1	12.1	17.6	17.2	7.9	7.6	0.0	9.0	30.6	28.2
4	11.2	11.0	16.9	16.2	6.2	6.5	0.0	9.0	38.1	28.9
5	10.8	10.1	17.0	15.3	5.6	5.6	0.5	9.1	30.6	29.0
6	10.6	9.4	17.2	14.5	4.8	4.8	0.0	8.3	41.8	29.0
平均	12.0	11.7	17.8	16.8	7.3	7.2	合計	6.0	53.5	193.9
										171.6

注) 半旬数値は熊谷地方気象台日別測定値から集計。ただし、月平均・合計は気象台値。

平年値は 1991～2020 年の気象台値。



令和7年播（8年産）冬作期間気象図
(熊谷地方気象台日別データより作成)